

全体講評

全体的にあまり正答率は高くありませんでした。設問の意図が分かりにくい問題が多かったのが原因だと思います。しかし、設問で問われている内容と異なる観点からの解答をして、不正解になっている人も多くいました。午後 では、設問の意図と合わない解答は絶対に正解になりませんので、設問を注意深く読む習慣は必ず身に付けるようにしてください。

今回の出題のもう一つの特徴は、法律などに関する一般的な知識で答える設問が多かった点です。これに関しても、正答率はあまり高くありませんでした。下請代金支払遅延等防止法の内容やブリッジ SE の意味などは、やはりプロジェクトマネージャとして、しっかり理解しておかなければならないでしょう。

問1 プロジェクトのセキュリティ管理

プロジェクトのセキュリティ管理に関する問題です。一般論で答える設問が多く、セキュリティや機密保持契約に関する基本的な知識が必要とされる内容でした。これらの知識は、プロジェクトマネージャにとっては必須なので、解けなくてはならない問題だと思います。

[設問1]

設問に「クレーム内容に対する個別の対応を進めるだけでなく」と書かれているので、個別の問題を取り上げるのではなく、プロジェクト運営の立場からの総括的な質問を挙げなくてはならないことが分かります。しかし、多くの受験者が個別の問題を取り上げて、不正解となっていました。

機密保持契約の締結内容を挙げている解答もありましたが、これは設問3で別途取り上げているので、設問1で取り上げるのは不適当としました。

また、セキュリティ面からのC社の要求内容を挙げた解答もありましたが、これは正解としました。

[設問2]

問題文にヒントが明確に書かれているので、ほとんどの人がとらえるポイントは合っていました。しかし、脅威とリスクが明確に書き分けられていないために不正解となった人が非常に多くいました。脅威は、システムに直接被害をもたらす行為を書き、リスクにはその脅威からもたらされる情報資源の損失を述べなくてはなりません。

脅威としては、不正アクセス、顧客データ持ち出しという観点で書かれていれば正解としました。リスクとしては、漏えい、改ざんおよび不正使用という観点で書かれてい

ば正解としました。

本番稼働中のデータを使用している点について述べた解答も多くありましたが、これは結合試験環境の問題ではないので、不正解としました。

[設問3]

略語については、多くの人が解答できていました。契約を結ぶ意義については、いろいろな解答がありました。特に、N社の立場については、次のような解答が多くありました。これらについても正解としました。

- ・機密を守る姿勢を明確にして顧客の信頼を獲得する。
- ・自社の責任範囲が明確になり、訴訟リスクなどが軽減される。

また、N社が自社の情報の漏えいを防ぐことができるという観点からの解答も多くありましたが、設問には「相手から提供された機密情報を外部に漏らすことのないように企業間で交わす」と書かれているので、観点がずれているということで不正解としました。

C社の立場については、N社の責任を明確にし、N社からの情報漏えいのリスクを軽減するという趣旨の解答も正解としました。

問2 開発プロジェクトの外部委託

外注管理に関する問題です。下請代金支払遅延等防止法に関連する設問が含まれ、法律に関する知識の有無によって得点に大きな開きが出たと思われますが、プロジェクトマネージャにとっては、当然知っていなければならない内容ですので、確実に身に付けるようにしてください。

[設問1]

設問の趣旨が非常に分かりにくいので、解答のポイントがずれている解答が多くありました。なぜ予算が苦しい中で十分な予算措置をとったのかということに疑問に感じることができれば、開発技術に関する観点から解答できたと思われます。

[設問2]

法律名は、「下請法」、「下請代金支払遅延防止法」という解答が非常に多くありました。「下請法」という略称は、間違いではありませんが字数が15字ということのを考慮して、正式名のみを正解とし、これらの解答は3点としました。「不適切な点」としては、開発ツールの購入の強制を挙げた解答が非常に多くありましたが、機能の優位性を確認した上で購入しているため、必ずしも強制ではないと判断しました。

[設問3]

要件定義は顧客に参加してもらうのが基本です。解答としては、要件定義にB社に参加してもらうということが書いてあれば正解としました。要件定義以外の工程のレビューを挙げた解答も多くありましたが、やはり重要なのは要件定義なのでこの解答は5点としました。また、B社のレビューということを明示せず単にレビューを行うという表現の解答も5点としました。

問3 システム開発における品質管理

品質管理に関する問題です。品質管理に関する基本的な知識が問われる問題ですので、品質管理の原則に従って、考え過ぎずに素直な解答をしていくことが重要です。

[設問1]

多くの人が、～は正解でした。～については、設計バグ数と製造バグ数を挙げている人が多かったのですが、これでは予定バグ数との対比が出来ないので、不正解としました。また、～については、バグの発生率を挙げている人も多くいましたが、これは品質管理という観点から適切な管理指標と考えられるので、正解としました。

[設問2]

工程として詳細設計を挙げている人も多くいました。可能性としては、詳細設計も考えられますが、詳細設計は開発経験のあるN社が担当しているのに対し、プログラム設計はN社の開発プロジェクトに初めて参加するC社のメンバーによって行われていることを考慮すれば、プログラム設計の不備の可能性の方が高いと考えられます。

また、イベントはN社からC社への業務の引き継ぎなどを挙げている解答も多くありましたが、ここでは一番重要なイベントを挙げるということで、プログラム設計書レビューだけを正解としました。

また、その内容としては、詳細設計書との整合性を主体に記述した解答を正解としました。単に内容のチェックを行うなどの解答は2点としました。

[設問3]

多くの人が質問の内容は解答できていました。しかし、理由については、非常に多くの人が単純にシステムを修正した場合には既存機能テストが必要だという解答をしていました。ここではやはり、問題文の「開発規模から換算してテスト項目は十分である」という記述を捉えて解答する必要があります。

問4 海外の協会社との分散開発

中国のソフトウェアハウスを利用したオフショア開発に関する問題です。この問題も問題文に明確なヒントがあるわけではなく、一般的な知識を主体に解答する問題でした。それだけに、オフショア開発に関する知識があまりない人

には解答しにくい問題でした。しかし、プロジェクトマネージャとしては、オフショア開発に関する知識は今後必須だと考えられますので、基本的な事項は押さえておくようにしてください。

[設問1]

プログラム製造工程に関しては、多くの人がプログラム製造工程を挙げていました。もう一つの工程に関しては、結合試験工程のほかに、プログラム設計工程や総合試験工程を挙げている人も多くいました。リスクについては、品質の問題だけを挙げていて、設問の「工数見積りにおいて」という指定から外れた解答が多く見受けられました。品質について述べても構いませんが、それと工数を結びつける部分の記述がない解答は不正解としました。対策については、解答例のほかに、生産性の見直しの観点からの解答も正解としました。

[設問2]

設問の趣旨が分かりにくく、正答率は良くありませんでした。翻訳チームを挙げた解答も多くありましたが、これは品質改善につながるもので、内容に応じて各2点としました。また、ブリッジSEを挙げた解答もありましたが、これは設問3と重複しますので、不正解としました。

役割については、テストを行うなどの解答もありましたが、品質管理者の役割はテストを行うことではなく、テストが適切に行われていることをチェックすることですので、不正解としました。

[設問3]

ブリッジSEという言葉は、多くの人が解答できていました。期待される内容については、いろいろな解答がありました。解答例のほかに、以下のような内容も正解としました。

- ・日本、中国の間の文化の違い、考え方の違いを理解し、双方のコミュニケーションの円滑化に寄与する。
- ・開発の進捗の度合いや、開発上の問題点を正確に伝達し、問題解決に貢献する。

以上